

平成28年 SJCD合同例会発表 抄録

演 題 自家歯牙移植の長期経過症例から歯根膜の重要性を考える

演者名 佐藤 俊一郎 熊本県阿蘇市開業 熊本 SJCD

抄 録

私が自家歯牙移植を自分の治療のオプションの一つとして取り入れて、もう20年になります。その数は100を超えましたが、今現在移植した全ての歯が生存し、口腔内で機能しています。歯根膜という神経筋機構のフィードバックを持つ移植歯には、インプラントでは得られない良さがたくさんあります。

自家歯牙移植という言葉を聞いただけで、未だに拒否反応を示す先生が多いかもしれません。残念ながら以前の冒険的な移植がもたらした失敗からくる悲観論が、今でも残っているようです。しかし、アンキローシスや歯根吸収を起こすことなく長期的に機能している移植歯を目の当たりにすると、正しい知識と技術のもとに行われればその予後は決して悪くないということが分かってきました。

今回は、一つの症例を通して、歯根膜の組織像や再付着の治癒過程を考察するとともに、長期経過症例を提示し、統計的な数字を下に自家歯牙移植の予後について自分の考えを述べたいと思います。

私なりの正直な発表の中に、何かを感じてもらえたら幸いです。